

平成28年度アドバイザー派遣事業実施レポート

西伯郡授業づくり研究会

- 1 期 日 平成28年6月17日（金）
- 2 場 所 伯耆町立八郷小学校
- 3 研修内容

（1）研修テーマ

個に応じた確かな学力の定着と人間関係力の育成

～『教えて考えさせる授業』を通して確かな学力の定着を図る～

本研究会では、各教科において『教えて考えさせる授業』のスタイルを活用し工夫することにより、児童は見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができ、確かな学力の定着が図れると考える。また、一人一人の良さを認め合い、お互いが尊重され、何でも言い合える人間関係を作ることができれば、安心して自分の思いを語り、意欲的に学習に取り組む児童が育つと考え、本テーマを設定した。

（2）指導助言者

東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース

教授 市川 伸一 先生 （両日とも）

学力の定着を図るには、習得すべき内容を明確にし、学習の中で繰り返し使いこなしていく場面を設けることが不可欠である。『教えて考えさせる授業』は、習得型の授業スタイルであり、理論面の指導とともに実際の授業につながる演習指導を行っていただける東京大学の市川伸一先生にご指導を仰ぎたいと考えた。

（3）『教えて考えさせる授業』の授業公開

※別紙指導案参照【2年（算数）】

（4）授業研究会

○ 三面騒儀法によるグループ協議

- ・「教える」がコンパクトで、短時間に収まっていた。
- ・前時の学習内容の掲示、今何をしているのかがわかる進行カードなど、見える支援が工夫されていた。
- ・「早くテープ図をかきたい」という意欲が児童の姿から感じられた。
- ・問題文を早く書き写せない児童への支援が用意されていた。
- ・「理解確認」の場面が、「教師からの説明」の続きに感じられるほど長かった。
- ・もっと子どもの言葉で説明させたい。ペアにするタイミング、困っている子への支援をもっと早く。
- ・テープ図のかき方の扱いでは、量感を養うことが大事であれば縦線を入れる場所について児童に説明させる必要がある。「残りの数」「減った数」が左右逆になってもよいのかか？という疑問に対しては意見が分かれた。
- ・「理解深化」の問題は、よく考えられた問題で児童の意欲も高まっていた。なぜ②～④の図ではいけないのか理由が大切である。
- ・テープ図④が入っていたことで、量感を養うことにもつながっていた。

- ・グループでの協同的な学びの姿はこれでよかったのだろうか。最終的に1つの答えにまとめる必要があるのかどうか。
- ・「理解深化」なのでもう少し難易度をアップした問題を工夫してもよかったのではないか。
- ・単元を通して1枚の紙にふりかえりを書けるのがよい。
- ・「楽しかった」という感想のレベルで終わらせずに、「〇〇がわかった」という記述をめざしたい。

○ 指導助言

- ・予習をしてくるかどうかで本時の授業の理解度が違ってくる。5分程度ざっと教科書を読んでくる程度でもよい。学年が上がって学習が難しくなればなるほど、予習をすることで授業がよくわかり、復習もさらにはかどる。
- ・「理解確認」とは、「子ども自身が、自分は説明を聞いてわかったかどうかを確認する」という意味と、「教師が、自分の説明が子どもたちにうまく伝わったかどうかを確認する」という両方の意味がある。理解できているかどうかは、人に説明できるかどうかで見ることができるので、ここではしっかりと子どもたちに説明させたい。本時の場合であれば、もっと子どもが図を使って指差しながら説明する姿があるとよかった。
- ・「理解深化」では、いくつか選択肢を与えた中で、どれが正しいかを考えさせること、その根拠を説明させることはとても大切である。本時の指導案を見たとき、おもしろい問題だと思った。ただ、本時の中で④のテープ図が加えられていたが、この扱いについては指導者によっても考え方が異なるところではないか。本時では①を○、④を×としたが、①を◎、④を○、①を○、④を△というのもあると思う。「量感」を大切に考えて④を×と扱うのなら、深化問題ではなく、もっと前の段階でそれを教えておくべきだった。
- ・指導案の期待する児童の姿と困難さを克服する内容を同じように盛り込んでいけばいいのではないか。
- ・テープ図の縦線をどのあたりに入れるか、「減った数」「残りの数」の左右をどうするかというのも、指導者のねらいや意図によって異なる。
- ・「深化問題」の実践例を残す工夫をしていけば、学校の財産となっていくと思う。作った問題を教科書に貼っておくのも1つの方法である。
- ・アクティブラーニングは、能動的、協同的な活動を通じた学習であり、「理解確認」の場面ではペアで教え合うことが第1歩と言える。「理解深化」の場面では教師が与えた課題をみんなで解決していくことがそれに当たると言える。

4 研修の成果

- ・全学級が授業を公開し市川先生に指導をしていただくことで、全員が一丸となって研究会に臨むことができた。
- ・協同的な学び合いについて、「確認」と「深化」の場面で具体的な指導をいただき展開のポイントが確認できた。
- ・授業前に「困難度査定」で個の実態をよりきめ細かく想起し、支援方法や手順を具体的に考えしっかりと準備することが大切であると共通理解した。